

女子制服に見る服装の近代化

セーラー服の始まりは金城学院

■女学生の制服は和服袴姿だった

女学生の服装は、当初は着物にえび茶の袴(はかま)姿だった(右図)。大正時代になると「服装改善運動」の影響で、「動きやすさ」「締めつけからの解放」「経済的負担の軽減」から洋服化が次第に普及した。



名古屋市立第一高等女学校の卒業式(大正11年3月)
出典：難波知子『近代日本学校制服図録』2016



淑徳洋式制服第1号

出典：『愛知淑徳学園百年史』2007

■洋式制服のはじまり:淑徳学園

愛知県下で女子制服の洋装化は淑徳学園が最も早く、榴山学園がこれに続いた。淑徳学園では、大正9年5月、創立記念日を期して淑徳洋式制服が採用された。ワンピースの夏服で、地質は綾モス、色は紺、東京松坂屋仕立てであった。まだ保守的な時代であったので父兄からは反対の声もあった。

■金城学園のセーラー服は日本初

女子制服で人気が高いセーラー服(セパレート式)は、名古屋の金城学院が全国で最も早いとされる(日本大学の刑部芳則准教授)。水夫(sailor)の甲板衣を基にしたセーラー服が女子制服として普及したのは、男子学生の制服が5つボタンの陸軍式だったのに対し、海軍式のセーラー服が好まれたともいわれる。金城学院は、1889(明治22)年ミッション系の女学校として開学し、1920年に百合十字の校章、翌1921年に制服、1922年に校歌が制定されるなど、学内整備が進められた。1921(大正10)年に制定されたセーラー服は、当時学校の校主取扱、聖書担当の教授、チャールス・A・ローガンの、二人のお嬢さん(メリー、マーサ)が着ていたセーラー服が基になったという。



ローガン夫妻とセーラー服のお嬢さん
出典：『目で見える金城学院の百年史』1989

←金城学園のセーラー服 1921年
写真提供：学校法人金城学園